

地域と学が

山形大学地域教育文化学部

「中井先生、自尊感情を育むことのうちの教育」が
つながりました」

これは、酒田市出身の詩人・吉野弘さんの「奈々子に」の詩を通して自尊感情について考えた授業の後に、複数の学生から寄せられた言葉である。吉野さんは「奈々子に」という作品の中で、生まれたばかりのわが子に、

お父さんが
おまえにあげたいものは
健康と

自分を愛する心だと語り掛けている。そして最後に「自分を愛する心は、から取るにも育むにも難しい」とも言っている。

私は地域社会の特色ある教育を教材にした授業を行っているが、「いのちの教育」については山形県が現

教育経営学 中井 義時 准教授

▽1957年生まれ、鶴岡市出身。山形大着任は2016年。



授業後、ハグをして感動を分かち合う鈴木多鶴子先生と学生＝昨年12月、山形市・山形大小白川キャンパス

自尊感情育むいのちの教育

在も受け継いでいる大切な教育であり、大学の授業でも重点的に扱っている。「いのちの教育」の授業（全6時間）の最初は、草柱でもある自尊感情を育む本初の学校給食、全国に先駆け実施した少人数教育などを通して、山形県が「生命」を大切にする心、寒河江市を拠点に命の大切さについて参加者同士が語り合う「一人一人を大切に育てる心」などの精神文化を大切にしていることを学ぶ。次に「いのちの教育」の柱でもある自尊感情を育む「産」を中心とした講話を聞く。学生一人一人が自らの存在の尊さと自分らしい生き方のありように気付き、心の変容とともに教室の空気が変わる瞬間でもある。

最後は、担任として「いのちの教育」にどう取り組むべきか話し合い、想定した自分の学級経営案に整理していく。自尊感情を育む新鮮なアイデアが書かれる。学生が教師に見えてきて、将来への希望と期待が膨らむ。

私は、郷土を愛し、子どもを愛し、一人一人に親身になつて教育のできる教師を育てたいという強い思いを持って着任したし、この思いは最後まで持ち続けていきたいと思う。

11月1回掲載します